

令和5年度

帝塚山学院泉ヶ丘中学校
入学者選抜試験問題

1次A入試

国語

(試験時間 60分)

受験番号	
------	--

□ 次の文章はいとうみくの『あしたの幸福』の一節である。中学生の「雨音」は、一緒に暮らしていた父親を夏休み中に事故で亡くし、幼い頃に家を出た実の母親と暮らすこととなった。次の文章は「雨音」が夏休み明けに初めて学校に登校する場面から始まる。よく読んで後の問いに答えなさい。

夏休みと違って、下駄箱のまわりは朝から騒がしい。いろんな声や笑い声に混じって、バコンバコンとすのこの上に上履きを落とす音が響いている。

なんでみんなこんなにテンションが高いんだろう。と思わないわけでもないけれど、久し振りのこの感じはいやではなかった。

上履きに履き替えて、職員室の横にある階段をあがった。二年の教室は三階にある。

二階まで上がったところで、上の階から去年担任だった秋川が下りてきた。

あたしを見て、あつと一瞬戸惑った顔をして足を止めた。

「おはようございます」

「おはよう」

先生はそう言ってあたしのところまでおりてきた。

① お母さんと暮らすことになったって？」

うしろからあがつてきた三年生の女子が、こつちをちらちら見ながら追い抜いていく。

「あ、すまん、こんなところで話じゃなかったな」

あたりまえだよ……。

あたしは黙ってうなずいた。

どうしてこんなにデリカシーがないんだろう。

「でも先生、少し安心したよ」

安心？

「顔色もいいし、元気そうでよかった」

本当にそう見えるんだとしたら、視力か記憶力に問題があると思う。

パパが死んであたしは四キロやせた。あの人の料理で一キロ戻ったけど、夏前に比べたら三キロもやせている。

廉太郎は昨日、すぐわかったよ、あたしがやせたって。

「でも、なにか困ることがあったら相談するんだぞ。オレは去年の担任なんだから。養護の石田先生も相談にのってくれるだろうし、スクールカウンセラーの先生も水曜だったら一日いるから、一度相談に行ってみるといい」

「相談って、なにをですか？」

「なにをって、そりゃあ、^②いろいろ大変だろうと思うし。ほら心のケアとか」

先生は口ごもりながら、頭をかいた。

心のケア？ とか言っちゃうんだ。

^③あたしはにっこり笑った。

「ありがとうございます。教室、行ってもいいですか」

「ああそうだな、みんな外崎に会いたがってるよ」

はい、とうなずいて階段を駆け上がった。

会いたがってるなんて言われて、あたしがうれしいとでも思っているんだろうか？ いや、たぶん思ってるんだ。だからつ

ぎつぎと薄っぺらいことばが口からこぼれる。

三階の廊下に出ると、男子数人が上履きの下に雑巾を置いて、長い廊下をスケートのように滑っていた。あちこちの教室から笑い声や話し声が聞こえてくる。いつもの喧騒だ。

「おはよ」

教室に入ると一瞬、ざわついていた空気が止まった。

と、「雨音」唯が真ん中の席で手をあげた。

「新学期そうそうギリじゃん！」

「廊下で秋川につかまっちゃって」

あたしが舌を出すと、唯はマジでーと頬に両手を当てて、^④1 ムンクのアノ絵みたいな顔をした。前の席の渡会君が、森

内ブスだなーとげらげら笑うと、教室の空気がふつとゆるくなった。

唯は、こんな風に④空気をかえるのがうまい。あたしが一番いやだったのは、あたしの顔を見て、妙にしんみりしたり、不憫がって同情したり、そういう過剰な反応をされることだ。それを唯は自然に抑えてくれた。あたしは窓際のうしろから二番目の席に座った。

（ 中 略 ）

小さく咳払いをして窓の外に目をやると、ポロシヤツ姿の先生と数人の生徒が朝礼台を動かして全校集会の準備をしているのが見えた。この炎天下、何十分もじつと立っているのは拷問に近い。校長の話なら、校内放送かなにかでやればいいのに。そんなことを思っていると、担任の猪本が教室に入ってきた。

「きりーつ」

クラス委員の前田君が号令をかけると、ガタガタとイスを動かす音が教室に響いた。

「礼」

朝の挨拶が終わると、猪本は教室をぐるっと見渡した。

「このあと全校集会があるから、体調の悪いもの以外は全員必ず校庭に出ること。それから」と、あたしのほうに一度顔を向けた。

「みんなも心配していたと思うけど、外崎が元気な顔を見せてくれて、先生もうれしい」

頬が引きつったのが自分でもわかった。猪本と目が合ったとき、いやな予感した。

でもそういうこと言う？ せつかく自然にスタートできたと思ったのに、どうして煽るようなことを言うんだろう。「お父さんが亡くなって、でも頑張っている外崎は本当にすごいと思う」

ダメだ。わかってない。

「だから、これからもみんな、外崎の力になってやってもらいたい」

マジで余計なことではないで。

「それがクラスメイトとしての」

「いりません！」

あたしが言うのと、猪本は目を見張るようにしてこつちを見た。

⑤「そういうの、あたし知らないです」

「いや、でも」

動揺どうようしたように口ごもる猪本を無視して、あたしは窓の外に目をやった。

「センセー、校庭出なくていいんですかー」

教室の端はしのほうからの男子の声に、猪本は「あ、ああ」と②くぐもった声で応こたえた。

「いやー、さっきの雨音の③ストレートすごかったね」

昼休み、トイレから出ると唯が

1

ん？　と言うと、唯はひよいとはなれて④ファイティングポーズをとって、右手をあたしの腕うでに軽く当てた。

「あたし、ボクシングなんてやったことないよ」

「もー」と唯はもう一度腕を組んできた。

「比喩ひゆだよ比喩」

「比喩？」

「そつ、雨音って案外天然だよな」

愛想あいそがない、と言われることはあっても、そんなことを言われたことはない。

「ホームルームときの猪本とのアレのこと」

2　と、唯はまじまじとあたしを見た。

「でも、雨音があんなにはつきり言うとは思わなかった」

「そう？」

「そうだよ。雨音は結構⑤辛辣しんらつに⑥毒吐どくはくけど、表には出さないじゃん」

3　と、唯はふふつと肩かたを揺ゆらした。

「秘密主義だからね。思っていることを簡単に口にしたりしないし、まあそこがあたし的には面白おもしろいところでもあるんだけど、

⑥でも今日けふみたいな雨音もいいと思うよ」

「べつにあたし、秘密主義でもないよ。今朝のは、猪本の勘違い発言にイラッとしただけだし」

「それはわかる。あたしでもイラッとしたし」

「そうなの？」

「するでしょ、そう思った子、結構いたんじゃない？ ドーせ、困っている人やかわいそうな人がいたら助けてあげましょうってなノリでしょ？ アホくさ、あたし小学生かよ。つーかさ、困ってるとかかわいそうとかって、上から目線なんだよ。勝手に決めつけんなっての」

だね、と返すと、唯は 4。

「でも、男子はどうだかわかんないよ、とくに仲尾とか。頭ん中、幼児並だから」

「ひっどーい、でもたしかに」

笑いながら教室に入っていくと、廉太郎があたしの席に座って、うしろの席の前畑君としゃべっていた。

(いとうみく『あしたの幸福』)

① ムンクのアノ絵……十九世紀から二十世紀のノルウェーの画家であるムンクの作品、『叫び』のこと。両頬に手を当て

て大きく口を開けている特徴的な人物が描かれている。

② くぐもった……何と言っているのかよく分からないような、はつきりしない様子。

③ ストレート……ボクシングで真正面に向けて放つパンチのこと。

④ ファイティングポーズ……格闘技などにおける戦うための姿勢・構えのこと。あごのあたりで拳を構えるポーズが一般的に知られている。

⑤ 辛辣……言葉や表現、言い方などが非常に手厳しいこと。

⑥ 毒吐く……毒を吐く。嫌みや悪口などを言うこと。

(一)——①「お母さんと暮らすことになったって？」とあるが、この発言にいたるまでの「秋川」の気持ちとして最も適当なものの中から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 父を失った「雨音」への対応の仕方こころに困惑しつつも、「雨音」のこれからの家庭生活のあり方を気にかける気持ち。

イ 「雨音」が久々に学校に戻ってきてくれたことで嬉うれしくなり、「雨音」と久しぶりに会話を楽しみたいと思う気持ち。

ウ 父を失った「雨音」から深い悲しみを感じとり、家族の話題に触ふれることで「雨音」をなぐさめようと思う気持ち。

エ 「雨音」が登校したことに心の底から安心し、何気ない会話をすることで「雨音」をリラクセスさせようと思う気持ち。

(二)——②「いろいろ大変だろうと思うし」とあるが、この時の「秋川」の様子について説明したものと最も適当なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 「雨音」の本当の気持ちを知ることにはまったく無関心だが、年上の人間にふさわしい気づきだけは見せておかないといけないと思い、優やさしい姿を見せるように必死に演技している。

イ 「雨音」が傷やついているかどうかにはあまり興味がないが、担任の仕事には強い誇ほこりを持っており、学校にケアの手段があることを伝えて、元担任としての責任を果たそうとしている。

ウ 「雨音」が見た目では明るく振ふる舞まっているが辛つらい思いを抱かかえていることを正確に見抜ぬいているので、ねぎらいの言葉をかけて、言葉の上だけでもいたわってあげたいと思っている。

エ 「雨音」が父を亡くしたことで傷やついているかもしれないことを一応は気にかけても、「雨音」の本当の気持ちまでは理解できておらず、表面上のやりとりにとどまっている。

③「あたしはにっこり笑った」とあるが、このときの「雨音」の気持ちについて説明したものととして最も適当なものの中から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 「秋川」の「雨音」に対する心配の言葉をわずらわしいと思い、そのように感じている自分の本心をあいまいな笑みで「秋川」に気付かせようとしている。

イ 「秋川」の「雨音」に対する外的外れな気遣いにあきれながら、そのような不器用な方法しか取れない「秋川」に同情し、笑いかけることで励まそうとしている。

ウ 「秋川」の「雨音」に対するうわべばかりの同情の言葉に反感を抱きながらも、あえて笑顔を見せることで早く会話を切り上げてこの場を立ち去ろうとしている。

エ 「秋川」の「雨音」に対する心のこもらない励ましを不快に感じたため、わざとらしい笑顔を浮かべることで「秋川」に反抗の意思を示そうとしている。

④「空気をかえるのがうまい」とあるが、このときの「唯」の説明として最も適当なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 「雨音」の父が亡くなったことを知るクラスメイトたちによって教室は重苦しい空気となったが、何も気付かなかった「唯」のふざけた行動がそれを変えたということ。

イ 「雨音」が学校に来るとはだれも予想しておらず、とまどう気配が感じられたクラスの雰囲気（かんいき）を、「唯」が率先して動き出すことよって解きほぐしたということ。

ウ 「雨音」に声をかけるタイミングをうかがっていたクラスメイトたちの心情を察した「唯」が、お手本を見せることで話しかけやすい空気を作り上げたということ。

エ 「雨音」に対するクラスメイトたちの気遣いによって静まりかえってしまった教室が、「唯」がわざとおどけた振る舞いをするのでいつもの雰囲気へと戻ったということ。

⑤「そういうの、あたし知らないです」とあるが、なぜ「雨音」は「猪本」の発言に対してこのように答えたと考えられるか。次の形式に合うように、これより後ろの本文中のことはを用いて答えなさい。

猪本の発言は、（ 五十五字以内 ）から。

(六) 1 4 に入ることばとして、最も適当なものを次から選び、それぞれ記号を○で囲みなさい。ただし同じ記号を二度使わないこと。

ア なにそれと苦笑する イ 「あつ」と顔を向けた ウ ああ、とうなずく エ 腕を組んできた

(七) ⑥「今日みたいな雨音もいと思うよ」とあるが、「唯」は「雨音」のどのようなところをいいと思ったのか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 普段は親しい友人にも自分の本心を見せないとこころがあるが、めずらしくはつきりと自分の考えを主張したところ。

イ 普段は引つ込み思案で自分から意見を言えないところがあるが、自分の意に反することに対してきっぱりと否定したところ。

ウ 普段は何事にも無関心で何を考えているのか分からないところがあるが、感情が高ぶったので後先考えず戦う意志を示したところ。

エ 普段は冷静で自分の感情をあまり表に出さないとこころがあるが、必要に迫られて自分の本当の思いをすべてさらけ出したところ。

(八) 本文の表現の説明として最も適当なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 「パソコンパソコン」や「ガタガタ」といった物音を表す言葉を用いることで、「雨音」が周囲の物音に対して敏感に反応している様子が描かれている。

イ 会話文中に「いやー」や「もー」などのように、音をのばす表現を多用することで、のんびりした学校生活の雰囲気を感じられるようになっていく。

ウ 主人公である「雨音」が心の中で考えていることが、文章にそのまま書かれることで、「雨音」の心情が読者に伝わりやすいようになっていく。

エ 「ムンクのアノ絵」や「ファイティングポーズ」というように、登場人物の動作をイメージしやすい表現を用いることで、本文に緊張感が加わっている。

□ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

日本では昔から、人間関係を表現するのに、「馬が合う」、「虫が好かぬ」という面白い言い方がある。「どうも、あいつは虫の好かんやつだ」と言ったりするが、これらの表現の注目すべきところは、主語は「馬」、「虫」と人間でないものになっているところである。自分が好きになろうといくら努力しても「虫」が好かないのだから、どうしようもない、という感じや、別に努力しているわけでもないが「馬」が合うのだから、うまくゆくのだ、という感じがよく出ている。

これと類似の表現が外国にあるかどうか、私は知らない。ご存知の方があれば是非教えていただきたいが、英語にはないと思う。①キリスト教文化圏^{けん}では、人間の感情を表現するのに、人間以外の生物を主語にすることは、まずないだろうと思う。

カウンセリングの場面で、「虫が好かない」話を聞くことは多い。新入社員があまりにもイケ好かないので、「腹の虫がおさまらず」、会社をやめようかと思うという相談で、仕事のよくできる女性の^{ちゅうけん}中堅社員が来談した。ともかく「虫が好かない」ので、何でもかんでも腹が立つ、というのだが、「まあ、そう言わずに、腹が立つのはどんなことか、具体的に話をしていただませんか」と言うと、「彼女は職場にほんとうに仕事をする気で来ていないと思う」というのはじまって、服装からアクセサリーから、歩き方から、ことごとく嫌だ、というのである。へー アー

こんなときに、一番大切なことは、その話に耳を傾^{かたむ}けて聴^きくことである。こちらが熱心に聴いていると、話をする方にも熱が入ってあれこれと話すのだが、そうすると話し手の方が、話しながら②新しい事実^{じじつ}に気がつくのである。あるいは、話の内容が自然に変わってくることもある。

この場合は、新入社員の悪口ばかり言っていた人が、急に、「私も仕事、仕事、で熱心にやってきましたが……」と言って、ふと黙^{だま}ったりする。こんなときも、カウンセラーは、その話に耳を傾けて、ちゃんと受けとめて聴く。そんな会話を続けているうちに、この人は、自分は「仕事をする人は善」、「遊ぶのは悪」などとあまりにも決めつけて生きてきたのだが、やっぱり人生にはどちらも大切で、新入社員の若い子は、その辺を上手にバランスよくやっているのではないだろうか、ということ^{こと}を言いはじめた。

③人間の生き方は、何らかの意味でどこか一面的なところがある。そのとき、自分が無視してきた半面を生きてきた人を見

ると、「虫が好かぬ」と思うときがあるようだ。ここに、(1)「ときがあるようだ」などという表現をしているのは、いつもそうだとは限らないからである。へ イ へ

キリスト教文化圏では、おそらく「虫」を主語にして、自分の気持を語ることはないだろう、と言ったが、これは、やはり人間は他の動物とは異なるし、主体的な意味をもって生きていると考えるからだろう。しかし、そうは言っても、人間の意識はそれほどしっかりとした主体性を持つているだろうか、と二十世紀になってから、フロイトやユングなどの深層心理学者たちが言いはじめ、今日では、一般にもよく知られているように、「無意識」の重要性が論じられるようになった。人間の意識は思いのほかは無意識によって影響されている、とこれらの人は主張する。

日本語の表現の「虫が好かぬ」、「虫の知らせ」、「腹の虫がおさまらぬ」などという、「虫」を「無意識」のことと思うと面白いのではないだろうか。「虫が好かぬ」ときは、「俺の無意識はどうなっているのかな」などと思うと、新しい発見があったり、「虫の好かぬ」相手のいいところが見えてきて、友人になつたりする。へ ウ へ

虫は虫として、それでは「馬」の方はどうなのだろう。馬については、フロイトが人間の自我と無意識の関係を、騎手と馬との関係になぞらえたことをご存知の方は多いことだろう。「馬が合う」は、そうなると、何らかの無意識的なものを共有している、ということになる。へ エ へ

ここで、虫や馬を主語にして友人関係を語っているということは、それが目に見える利害得失と無関係であることを示している。つまり、自分にとって損になる関係なので人を嫌っているときは、「虫が好かぬ」とは言わないし、自分に利益を与えてくれている者とのつきあいは、「馬が合う」とは言わない。④ 友人関係は、直接的な利害関係や意識的打算とは重ならないと見ているわけである。

(2)、私がアメリカに留学したとき、あちらでは大学院生だったし、学生寮に入っていたので、あちらの学生や大学院生とつきあうことがあったが、そのとき、一人の学生が、自分はAという学生と以前は友人だったが、今ではつきあっていない、と言う。どうして、と訊くと、以前は、Aは数学がよくできたので教えて貰い、その代わりに、Aのことをいろいろ助けてやったりしていたが、なぜか知らないが、Aが最近怠け者になってしまつて、数学もできなくなつたのでつきあっていない、と言った。

アメリカの学生がすべてこうだということはないと思うが、ともかく、このときに、⑤ 「友人」(Friend) という単語を使う

ことが、私には気になった。友人であることの基礎に、利害関係がからんでは駄目、というのも言いすぎだし、広く考えると、何らかの利得ということはある、ということにもなるが、これほど明確に言われると、「友人」と言っているのかな、と思う。それに比べると、わけがわからないが「馬が合う」の方が、まだまだ、という感じがする。

新入のある大学生は、友人が欲しいと思っている。そのうち何となく「馬が合う」相手が見つかる。講義を一緒に聴いたり、サボってしまったたり、喫茶店でマンガを読んだり、一人では淋しいが、相手がいるので、大学に行っても何となく心強い。しばらくして、自分があるクラブに入ろうとすると、その友人は、そんなのやめておけ、と言う。余計なことをせずに、これまでのペースで何とかやっているのがいい。クラブなどに入ってもろくなことはない、と言う。

(3) 友人になったのだから、相手の言葉に従うが、何となくサツパリしない。そのうちに「馬が合う」はずの相手が自分の足を引っぱっているような気がしてきた。

そのうち、「馬が合う」などと言っていたが、ともかくお互いに一人で淋しいから共に居ただけではないか、と思いはじめた。(4)、思い切って、そのことを話すことにした。「お前と一緒にいると、何となく足を引っぱられていて自分の思いどおりのことができない」と言うと、相手はびつくりして、「俺も同じことを思っていた」と言う。クラブの件を持ち出すと、「自分がやりたいからといって、俺も誘うにきまってると思って反対した」と言う。

確かに「淋しさをまぎらわす」ことのみ共有では駄目だ、などと二人で話し合っているうちに、今度は以前よりも親しみが湧いてきた。もう少しそれぞれ好きなことをやりながら、友人でいようか、ということになった。

このように、「馬が合う」もただ安易に、馬の相乗りをしているだけでは駄目だ。どんな馬に乗っているのか点検する必要がある。そして、やはり必要とあれば、それぞれが別の馬を見出すこともいいであろうし、新しい馬の相乗りもいいだろう。

(河合隼雄『大人の友情』)

(一)——①「キリスト教文化圏では、人間の感情を表現するのに、人間以外の生物を主語にすることは、まずないだろう」とあるが、その理由を説明したものととして最も適当なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 人間を他の動物よりもえらいと考えており、加えて自分の好き嫌いを意識的にとらえていると考えられているから。

イ 人間も他の動物も同じく生命があるが、生きる上で必要な知識を得ようとする点はちがうと考えられているから。

ウ 人間と他の動物とを区別する考え方があり、人間は自らの意志に基づいて生きているものだと考えられているから。

エ 人間は他の動物のように本能で生きてはおらず、自分の将来像を見すえながら生きていると考えられているから。

(二) 次の一文は本文から抜き出したものである。へアへエのどこにもどすのが最も適当か。記号を○で囲みなさい。

「虫」の分析を通じて己を知るのである。

(三)——②「新しい事実に気がつく」とあるが、「女性の中堅社員」はどのようなことに気づいたのか。その説明をした次の一文の I・II に入る適当なことをばを、本文中のことはを用いてそれぞれ二十字以内で書きなさい。

はじめは新入社員の悪口ばかり言っていたが、筆者と話をするうちに自分が I (二十字以内) ということに気づき、新入社員の若い子は、II (二十字以内) のだということに気づいた。

(四)——③「人間の生き方は、何らかの意味でどこか一面的なところがある」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 人間は自分の軽視してきたことに他人がこだわる様子を見ることで、自己を振り返る得がたい体験ができるということ。

イ 人間には多かれ少なかれさまざまな偏りがあるもので、人間はその偏りから逃れることができないのだということ。

ウ 人間にはいかに無視しようとしても無視しきれない、どの人にも共通する種として固有の側面があるのだということ。

エ 人間は強く無意識の影響を受けるものであり、キリスト教などの宗教も無意識を通して人間に影響を与えているということ。

(五) (1) (4) に入ることはとして最も適当なものを次から選び、それぞれ記号を○で囲みなさい。ただし同じ記号を二度使わないこと。

ア せっかくだ イ わざわざ ウ ところで エ そこで オ つまり

(六) — ④ 「友人関係は、直接的な利害関係や意識的打算とは重ならない」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 友人の存在が自分にとって得になるかどうかということが友人関係を形作る際には重要であり、いくら気が合うからといって、それだけで友人関係を深められるかどうかは分からないということ。

イ 友人は本来的には意気投合できるかどうかが大切なので、その友人といることで自分と相手の両方にいいことがあるかどうかというのは、友人関係を維持する参考程度にしなければならないということ。

ウ 自分が好ましいと思う相手であつてもうまく友人関係を作ることができるとは限らず、友人関係には互いの相性^{あいしやう}だけではなく、いかにお互いに高め合えるかということも重要になるということ。

エ 自分にプラスになるという計算から、あるいはその友人と付き合うことで現実的な利益があるから友人になるのではなく、友人関係とはそのような計算や利益の存在とは無関係であるということ。

(七) — ⑤ 「『友人』(friend) という単語を使うことが、私には気になった」とあるが、筆者がこのように言っているのはなぜか。その理由を説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア アメリカ人の学生が使った「friend」という言葉から、友人を自分よりも下に見てばかりにしているように思い、気に入らないと感じたから。

イ アメリカ人の学生が使った「friend」という英語が、本来その訳語である日本語の「友人」という言葉と、ちがう意味を含んでいるように思えたから。

ウ アメリカ人の学生が使った「friend」という単語は、他のアメリカ人が使っている意味とはちがっていたので、正しい意味を知りたいと思ったから。

エ アメリカ人の学生が使った「friend」という表現が、日本人である筆者には聞き慣れないものであったため、どういう意味かわからなかったから。

(ハ) 本文の内容に合うものを次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 人間は他の動物とは異なつて意識と無意識の両方を持ち合わせている存在なので、カウンセリングで色々と思ひ返して悩みを解消することができる。

イ 自分にとつての損得勘定かんじょうだけで人間関係をとらえようとするとは何らかの無理が生じてきて、親しかった友人と突然距離とつぜんきょを置くことにもなりかねない。

ウ 気の合う友人であつても、時間が経たつて相手が氣に障さわるようになってきた時は、率直そつちよくにそのことを話してみると友人関係がよりうまくいく場合がある。

エ 相手のことを深く考えずに人間関係を結んでいく日本と違い、キリスト教文化圏では自覚的に相手との関係を作るので、人間関係で悩む者は少ない。

三 次の(1)～(10)の——を引いたカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 深海では物体にかかるアツリヨクが高まる。
- (2) 祖母のイサンをめぐつて争あらそう。
- (3) 保健委員が校内のエイセイ状態に氣を配る。
- (4) カモツ列車の通る線路。
- (5) 自分の個人情報がかクサンされる。
- (6) 失敗し、考え方をアラタめる。
- (7) 大きな城をキズく。
- (8) 人々の考えを正しい方向にミチビく。
- (9) 学問をオサめる。
- (10) 羊のムれを犬が追いかける。

④ 次の(1)～(5)の——を引いたことばについて、その使い方が正しければ○を、誤っている場合には正しいことばを書きなさい。解答はひらがなでもよい。

Aくんは自分の成績がよいことを大変(1)鼻にかけている、いけ好かないやつだ。そんなAくんが、算数の時間に先生に指名され、答えを黒板に書くように命じられた。分らず困っていたとき、だれも助けてくれなかった。出る(2)くぎは打たれるというやつだ。

しかしAくんにはねばり強いところがあるので、石に(3)しがみついてでもなんとか問題を解こうといった様子で、長時間黒板の前で頑張っていた。

その時さつそうと現れたのは、いつもAくんにはかにされているBくんだ。Bくんは(4)身に覚えがあるとでも言わんばかりな自信満々の表情で解答を書き始めた。答えを書き終わったBくんは席に帰り際、Aくんに対して「(5)口ほどにもないやつだ」と言った。

Aくんは、くやしそうに下くちびるをかみしめて席に戻った。

【五】 次の(1)～(5)の——を引いたことばと同じ種類のものを後のア～オから選び、それぞれ記号を○で囲みなさい。ただし、

同じ記号を二度使わないこと。

- (1) もしもし、ユウコさんですか。
- (2) ぼくはケンタです。
- (3) 午後からいっしょに図書館で勉強する約束だったよね。
- (4) 実はぼくの自転車のタイヤがとつぜんパンクしちゃったんだよ。
- (5) だから待ち合わせ時間に少し遅れそうなんだ。

ア 本を床に置くのはやめなさい。

イ 彼は長い道のりを進んでいく。

ウ 外に出るのはしばらくやめておこう。

エ 明日もまた来ますね、さようなら。

オ それはつまり賛成ということですよ。

令和五年度

帝塚山学院泉ヶ丘中学校
入学者選抜試験問題

国語（解答用紙）

受験番号

A

一

(七)	ア イ ウ エ	(五)				(一)
		1				ア イ ウ エ
(八)	ア イ ウ エ	2				ア イ ウ エ
		3				ア イ ウ エ
	ア イ ウ エ	4				ア イ ウ エ

二

(六)	1 ア イ ウ エ	(四)	ア イ ウ エ	(三)		(二)
				II	I	
(七)	2 ア イ ウ エ	(八)	ア イ ウ エ			ア イ ウ エ
	3 ア イ ウ エ		ア イ ウ エ			
	4 ア イ ウ エ		ア イ ウ エ			

三

(6)	(1)
(7)	(2)
(8)	(3)
(9)	(4)
(10)	(5)

四

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

五

(4)	(1)
ア イ ウ エ オ	ア イ ウ エ オ
(5)	(2)
ア イ ウ エ オ	ア イ ウ エ オ
	(3)
	ア イ ウ エ オ